

三月晦日真文和解

大魯西里國の大君と大日本國の大君とが國々好む
弟世に後近も限らず熱神冥意を以て熱意を取信し

睦愛して何れ心も通ふ熱意の約あり双方國境も破れ
お定具又後事通信和好の親交を結ぶ中記に在る魯西里

國大君と別居に可極人を見立合使して重臣の來未
水師將軍加三合星し布恬廷承平と千ん栲着天孫中付者

付る任節として兵部人依り日而國大君と別居に在る
中付尚井此赤き川流た馬の射候は多人て重臣の役人

御上六若以及人の栲着も山國に重臣の役人



不獲心公平やして古国に利益を損なふ事無し
後存心治るる古国に大君を引治り平に治る古国に信を取
臨むに規定條目と取之知る月日有る左と通すは是なり

○唯今以後普西更に大君と日本國に大君とを信し
此約東定りし事此約代に勿論代連も此約を以て規則
を固くせしむる古國に君を領分中未だ御氏より上進し且に仁
意を加へ可成大く厚く取扱はれ給ふなり

○古國は此約達し事しき事未だ此約を以て宣旨等並に是は故
と他國に入さば此約を古國に分界と取扱はるる日本
に北より此約界はエトロフとカラフトとの島也その内南寄にアニワ

漢よりカラフトと陸地の相を古國と古國との分界あるは此約等
開き此約を以て依りて双方より之を合し役人と云ふ事し且に洋儀
の上程と此約を以て其約未だ統一書に記さるる此約東より条
中ニ是れ可なり右分界は故に大樞エトロフと北より福
と南カラフトとの内南寄に知を降きありし事普西更に領分
と定む可成此約を以て

○普西更國に我體又平高取柄の存し日本國を大樞漢
と蝦夷と策館と古所を以て洋一此約を以て後古國に是れ
形は何れも古國の古所此約を以て治る用事と云ふ事此約の
破壊所ありし事此約を以て治る用事と云ふ事此約の

定章に依りて金限を却りて後、
交易の定書を冊に格入雖も、
口先の後、
右の漢長務表先着、
格別して他、
第一下通、
何形も、
苗用、
之松、
人とも、

一、
揚新、
右諸、
若由、
口布、
若處、

◎
形勢、
右館、
物と、

人在此等事取捕て彼人をして何しんべし
其格式を悉くは探りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
之を死せしめんと欲する人其格式を悉くは探りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
復文猶も何事也同格式ありしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
以者何事也之を西等事取捕て彼人をして何しんべし
或高家或中園之為りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
為分して代辨して諸事為りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
同格式也

○此等西等事人日本國中言万一重罪を犯し以者有る事
魯西等國之法則之刑に對し若死刑に對し若一旦在在者

之南人日本國中言萬一日本國之法則中間捕らるる又何事
罪を犯し以者有る事其格式を悉くは探りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
之を死せしめんと欲する人其格式を悉くは探りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
中在在者其格式を悉くは探りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
是又中園下等事也日本國之法則中間捕らるる又何事
相又り中人より各西等事人及中園人をして何しんべし
彼等事も魯西等事人其格式を悉くは探りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
以り後等事也日本國之法則中間捕らるる又何事
○日本國境外を捕りて其格式を悉くは探りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし
一版之中に於て其格式を悉くは探りしり又右等事取捕て彼人をして何しんべし

約書裁以留降之邦西國計以流外國傳以任處之平
對帝一月上各西國人之也位國之

○右教之條西國大臣之流降之有明之西國大臣之語之西國大臣
明白之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
一年之西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
定之條約之西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
之在條約之西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
不於降之西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
子通之西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣

一千八百五十四年正月十四日
癸丑年十二月二十八日

西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣
西國大臣之降之日本國大臣之西國大臣之語之西國大臣

大日本國御意中
大魯西亞御意中大臣市惟建

○正月晦日差出候真文

宣正月二日
差戻ス

大魯西亞國

大君主宰

大日本國

大君主欲万世無究堅固兩國誠實之如好友睦定意
而相和約建立疆界及日後相交之規是以

大魯西亞國

大君主特派欽差全權使御前大臣水師將軍加三金

星布特延永平

大日本國

大君主特派欽差筒井肥前守樣川野左衛門尉樣二大臣、談兩國三大臣、公同既熟思兩國之利益、驗証各欽奉全權之憑據、使即設立和約條款、陳列於左
○嗣後 大魯西亞國

大君主與大日本國

大君主及其後代必存和睦相交之規

二君所屬之疆域內、兩國人民身財必見保佑護庇

○以絕斷皆可致于不相和之緣、今即建立兩國之疆、北分日本國疆域、絕終之界、為エトロフ海島及哈喇土南邊之エロフ港口、全至于カラフト旱地、兩國疆域之

界、兩即無緩於該處、兩相商議決定、設立另一條、入此和約之款、是後エトロフ以北之千嶋、及唐太、除南邊未終之處、外皆應屬魯西亞國下

○為魯西亞戰船商船、日本國即開日本島之大坂ヲホサカ及蝦夷嶋之箱館ヲ西港口、自今以後、該船皆可入

該西港口灣泊、修整有壞之處、照定價出金貨、買所需之物、另一冊貿易之章程、立此和約之、兩國批准後、該西港口將來即揮定為貿易之所、除此西港

以及長崎、一旦各國可到之處、外魯西亞各船、再不到別港口、惟遇有緊急支、不論何船、若遭風受傷、盡

所需不得往前進走使因急須應至附近之港口有
似支日本地方官即須極力待人加撫恤矧即遇有
遭難者是也將修整船備所需之各貨買住在該
兩港口之魯西亞人應全全照渡海已遭難之魯西
亞日本西國人亦皆應解送此兩港口

○在該兩港口地方既議定使當之地基以建立魯
西亞國之寓館准魯西亞人自行是樓房貯領貨之倉
庫等之各項屋舍寓館內聽准魯西亞人同家眷居住
動行祝禱遵照本國法例規模日本國勿庸經理
禁阻魯西亞各船一至該港口灣泊每時互相往來赴

至寓館聽其便建各房之貨費與日本不相涉

○兩國將來約定貿易之章程以為日後該港口遵守
成規魯西亞大憲今及日後嚴禁止本國商人不合
例售其貪私甚即禁害鴉片之販倘有魯西
亞人違此法者聽日本地方官即將其貨一併歸
日本國入官將其人解送魯西亞寓館以發本地
照例治罪

○魯西亞國即設領事官在各該港口管理本國人
華軍督本且遵將定規併通達日本國大憲日本
國人待該領事官均應加禮秩等其位領事

官通達總理、領事、港口各大臣及日本國之大憲、
往來文移俱用平行、蓋領事官在日本國各為魯
西亞權柄之據、每遇領事官或有病或由本國任
間時、寓館之第二官代辦理、各吏有權於領事
官無異、

○凡遇者魯西亞人日本國境內犯重罪者、以本國法
例處治、為此於本地倘有犯輕罪者、則領事官或
本人照例或經報知本國、議上憲、決定辦理、隨
事發於本地亦可、凡遇有倭人凌害魯西亞人
者、魯西亞之領事官一經照會、日本地方官即須照

本方例治罪

○因兩國交好、及今起相安之故、通商之利益別
項好處、另外之特恩、除引入此和約條款之外、
日本國將來所為要付別國人者、同持、即付亦魯西
亞人、

以上各條約、應俟本大臣等分別奏明、

大日本國

大君主

大魯西亞國